

2025年6月26日 5歳児公開保育研修会
～保育を見よう・保育を語ろう～

子どもも実践者も、参観者も主体感をもち、互いに学び合う。実践の場に身を置く中で、実践を見つめる「わたし」は何を感じ考えているのか。

「かく」こと、「語る」こと、と他者の言葉を「きく」ことで自身の実践において見出した意味を再構築していく。今日ここでわたしたちが創り出した学びを大切に、次の実践を創ることにつなげていくことを目指しました。

本研修では、保育を参観する前に、この研修における前提を参加者の皆さんと共有しました。その後、5歳児の保育実践を参観いただきました。

保育後には、当日の保育実践者による D.D.を参加者のみなさんにご覧いただき、その日の保育を通して「印象に残った場面」を付箋に書いていただきました。

昼食後は、それぞれの付箋を持ち寄り、お互いの感じ考えたことを重ねながら、小グループで語り合いを進めました。語り合いの中では、想起される自身の実践をかきおこしたり、自身の実践を語り直したりしながら、実践の背景にある自身の価値観や教育観などを捉え直していくことに臨みました。

語り合いの後は、本研修による営みを 福井大学 宮本雄太准教授より意味づけていただきました。

研修終了後には、担任を囲み改めてその日の保育実践を振り返る時間を持ちました。みなさんご参加ありがとうございました。

参加者：27名（協定園6名含む）、本園職員7名

本日の研修

9:00～9:15 本園の研修のありかたについて
 9:15～11:45 「保育をみよう」
 12:00～12:15 「実践者の語り合い(D.D.)をみて聴こう」(：ほし組保育室)
 12:15～12:30 「保育を書こう」(：遊戯室)
 :印象に残った場面を付箋に記入し台紙に貼って
 12:30～13:15 昼食
 13:15～15:50 「保育を語り合おう」
 ・保育を通じた語り合い(グループでの /語り合いの共有
 ・宮本雄太准教授よりご助言
 16:00 本日の研修における学びの振り返り(参加者アンケート)

ひらき、紡がれる実践の可能性を「痕跡」から探る

保育実践

子どもの声
子どもの姿
遊びの痕

「ともに」あるとすることで暫定的に意味を見出し残していること残しているように感じていること残したいと思うことが一体何を紡ぎ出していくのだろうか?

同僚の声

日々の実践をめぐる語り合い D.D.(daily dialogue)

省察の履歴

ひらき、紡がれる実践の可能性を「痕跡」から探る

～12:30

保育を書く

保育実践の場に身をおき「わたし」が残したいと思ったことはなんだろう?

13:15～14:15

保育を語り合おう

印象に残った場面

ひらき、紡がれる実践の可能性を「痕跡」から探る

14:15～

実践を書く

なぜ「わたし」はこの保育実践が印象に残っているんだろう? かき残したもの、語り合ったことから想起された自らの実践はどんなことだろう?

～15:00

実践を語り合おう

想起された自らの実践

参加いただいた方のふりかえり（抜粋）

同じグループの方とお話しさせていただき、新たな気づきや改めて自分の保育を振り返り、自分が思っていたこと、感じていたことに気づいた。自分だけでは、と思っていたことも実は同じように悩んだり、迷ったりしながら日々保育に向き合っていること、子どもがどう感じているのか、子ども同士で相手を知ることを経験する大切さ、それに気づくことも大事。

グループでの話し合いは、様々な視点から意見交換ができました。時間が足りないくらい充実しており、他のグループの方ともお話したかったです。

同じ活動を見る中でも、他の先生方一人ひとり見方がちがいで、いろんな視点で考えることができました。新たな発見、気づきから自分の保育観を見つめ直してみようと感じました。

研修設計を振り返って

保育をかこうでは、二つのことを表現していただきました。「印象に残った場面」と「想起された自らの実践」です。「印象に残った場面」は語り合いの前に、「想起された自らの実践」は、語り合いの渦中でかいていただきました。「想起された実践」は、その後の対話の種となっていたグループもありましたが、かく以前から自分の実践に引きつけて考えていた方にとっては、その行為によって、問いを閉じてしまうようにも感じられました。参加者一人ひとりにとっての意味を捉えていく必要があると考えています。

附属園が「ハブとなる」と言われることがありますが、それは何を意味するのでしょうか。現場教員が自園以外の場や人とつながることの困難さが語られることがありますが、実施される研修は、単発に終わってしまいがちな側面があります。今回は、研修後に時間をおいて意味づいたことや、自園に戻ったとき新たに沸き上がった問いなどを持ち寄り、語り合うことのできる場を創出したいと考え、少し期間をおいた7月8日に再度オンラインで対話の機会を設けました。研修当日の保育実践がどのような文脈を辿っているのか、またそれぞれに持ち帰ったものが、その後の自身の保育実践の中でどのように立ち現れているのかなどを語り合いました。今後も、参加してくださった方々との学び合う仲間としての関係性を大切にしていきたいと考えています。

本園では、公開研修会当日、該当学年以外は保護者の協力を仰ぎ、10時登園としています。わずかな時間ではありますが、他学年の担任が、同じ保育実践の場に身をおくことができる意義は大きいと感じます。「もう少し長く参観したい」という声もありますが、時間の持ち方としては、今後も検討をしていきたいと思えます。